

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 日明 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

#### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

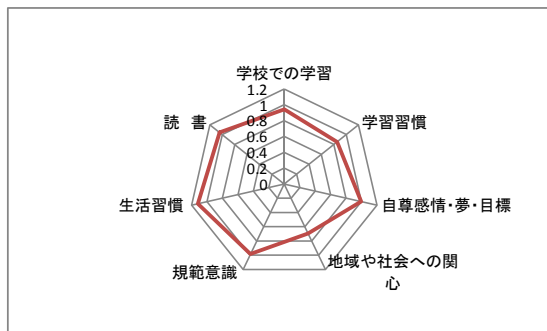
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を上回ることができた。特に、「話すこと、聞くこと」に関する問題は、正答率がかなり高かった。 ・書く力、読む力、言語に関する問題も、正答率は、わずかではあるが、全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	話し合いにおける友達の発言の趣旨を読み取る問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	俳句やことわざに関する問題の無解答率が高かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を上回ることができた。目的や意図に応じて文章全体の構成を考えたり、内容を整理して書いたりする問題の正答率が高かった。 ・物語における登場人物の心情などを捉えることに少し課題が見られる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫して自分の考えを話す問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	登場人物の相互関係や心情、場面の描写を捉える問題はわずかに正答率が低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をわずかに下回っているが、本校の課題である図形の問題は、全体的に正答率が高くなっている。 ・算数の計算についての力が不足しており、基礎的な計算力をつける必要があった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	商を分数で表す問題、最小公倍数を求める問題は、は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	かけ算などの基礎的な計算問題のミスが多かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を上回ることができた。どの領域も正答率が高く、応用問題に対しても、苦手意識をたず、しっかりと記述することができた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を判断する問題は、少し正答率が低かった。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・読書が好きな児童、携帯電話やゲームなどにあまり時間を費やさない児童、将来の夢や目標をもっている児童の割合が全校平均より高い。生活習慣が良い方向へ変化してきている。
・自分で計画を立てて勉強をしたり、予習したり、宿題をしたりといった学習習慣の定着率が全国に比べて低い。
・地域行事や地域や社会での出来事に関心がある児童が、全国平均に比べてかなり低い。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 学年に応じて体験したことや自分の思いや考えを書く活動をさらに積極的に取り入れる。
- 課題解決型で、グラフや図表を活用し、ディスカッションを取り入れた授業を展開する。
- 音楽科の授業で学んだ話し合いや共同作業の仕方を他教科にもさらに取り入れて行うようにする。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 学年×10分間の家庭学習を定着するようにする。
- 学校通信、学年通信、学級通信を通して、家庭学習への啓発を図る。
- 地域の教育力を積極的に活用するようにまち協などと連携するようにする。